

急性期病院におけるせん妄ケア質向上に向けた取り組み

公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター

整形外科・リウマチ膠原病センター病棟師長

急性・重症患者看護専門看護師 小幡祐司

発表概要

近年、高齢化の進行や医療技術の発展に伴い、入院治療や手術を受ける高齢患者が増加傾向にある。高齢は、せん妄発症要因の1つとされ、急性期病院においては、その対応が課題となっている。

せん妄の発症は、生命にかかわる身体疾患の罹患が関与している場合や、転倒や肺炎など、新たな合併症の原因と考えられている。さらに、せん妄を発症した際の体験が記憶され、患者の苦痛・苦悩を引き起こしている場合があり、患者の体験世界と苦痛を理解し、全身管理のみならず、苦痛緩和につながるケアを見いだすことが不可欠となる。

現在、急性・重症患者看護専門看護師（CCNS）として、急性期病院における、せん妄発症要因を参考にした、せん妄スクリーニングと予防的介入を含む早期介入に向けたシステム構築を目指し取り組んでいる。主な内容として、病棟におけるせん妄ケアのコアナースとなる、院内リンクナースの育成に取り組んでいる。また、リンクナースの依頼を受け、部署における学習会の開催や、ケアアドバイスなどを中心に、組織的な活動を行っている。

今回、自施設におけるせん妄ケア質向上に向けた取り組みを報告し、効果的なせん妄ケアのあり方についてディスカッションを行った。多くの施設で、せん妄ケアの必要性を感じながらも、回避することのできない現状において、効果・効率的なケアを模索していることが明らかとなった。

今後は、せん妄ケアの基盤となりうる「患者の思いに寄り添ったケア」に関する実践報告を積み重ね、参加者とのディスアッションを通し、急性期におけるより良いせん妄ケアを探究していきたい。